

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「夢をつなぐ、文化をつなぐ、地域をつなぐ」総合学科高校
 「つなぐチカラ」（知識・技術・情報をつなぐ活用するチカラ、人と人をつなぐ協働するチカラ、自分と社会をつなぐ自立するチカラ）を育むことで、社会に貢献する人を育てる。

- 多様な進路希望を持つ生徒に対し、「活用するチカラ」を育み、「夢をつなぐ（夢を叶える）」学校をめざす。
- 多様な文化を認め、共に生きることで、「人権意識」、「他を思いやる心」を持つ「協働するチカラ」を育み、「文化をつなぐ」学校をめざす。
- 「安全で安心」な学校生活、地域との連携の学びから、「自立するチカラ」を育み、「地域をつなぐ」学校をめざす。

2 中期的目標

「生徒ファースト～達成感・充実感・納得感～」を基本的な考え方とし、生徒一人ひとりの多様な学びと進路を実現する教育内容と教育環境の一層の充実を図る。また、生徒の心身の状況を把握し、生徒を取り巻くあらゆる状況の変化に対応できる「安全で安心な学びの場」づくりを進める。

※学校生活満足度を令和5年度には80%以上（H30：69%、R01：75%、R02：74%）をめざす。

1 夢をつなぐ（確かな学力と進路実現）

- (1) 生徒の達成感のある授業をめざし、「深い学び～視覚化・構造化・協働化～」をテーマに授業の充実・改善に取り組む。
- ア 授業アンケート、授業充実研修、授業見学週間、授業公開を活用し、「深い学び～視覚化・構造化・協働化～」をテーマに授業の充実・改善に取り組む。生徒が自ら考える活動や課題に取り組む活動を毎時間実施することで、主体的に学びに向かう力を養い、「深い学び」と達成感のある授業へとつなげる。各教科・科目やコアカリキュラム等での探究型学習を通して、思考力・判断力・表現力を養う。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における授業の満足度を令和5年度には75%以上（H30：59%、R01：68%、R02：70%）をめざす。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断「学習で自分が努力したことを認めてくれる」を令和5年度には80%（H30：72%、R01：75%、R02：76%）をめざす。
- イ ICTを効果的に取り入れ、一斉学習、個別学習及び協働学習を組み合わせることで学びの深化を図るとともに、教員研修や好事例の共有により1人1台端末を有効活用する授業実践を拡げるよう取り組む。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断「ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータやプロジェクタを使った授業がある」の肯定率を引き続き90%以上（H30：88%、R01：91%、R02：93%）を維持する。
- ※ 教職員向け学校教育自己診断「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」の肯定率を引き続き90%以上（H30：98%、R01：97%、R02：93%）を維持する。

(2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成

- ア 「総合的な探究の時間」や特別活動及びコアカリキュラムを中心に教科間の連携を有機的に進め、3年間を見通したキャリア教育や人権教育を実施し、多様な進路希望を持つ生徒それぞれの夢の実現を図るとともに、進学説明会、就職説明会、分野別説明会、進路体験学習、インターンシップなどを一層充実させる。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度を令和5年度には80%以上（H30：72%、R01：74%、R02：78%）をめざす。
- ※ 学校紹介就職率100%（H30：100%、R01：98%、R02：100%）、卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率を、今後3年間5%以下（H30：3.0%、R01：0.5%、R02：0.0%）を維持する。

2 文化をつなぐ（「人権意識」が身についた「他を思いやる心」をもつ生徒の育成）

- (1) 各教科、コアカリキュラム、総合的な探究の時間や特別活動等、あらゆる教育活動において人権教育を一層充実させることで、生命と人権を尊重し、他を思いやる「豊かな心」を持つ生徒を育成する。
- ア 人権教育に係る国及び府の関係法令等に基づき、在日外国人や障がい者に係る課題等をはじめ、様々な人権問題について偏見や差別を許さない態度とその解決をめざした教育を総合的に推進する。
- イ 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」の学習状況や活動状況を校内で共有し、個々の教育的ニーズに応じた支援の充実に努める。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における人権に関する項目における肯定率を引き続き80%以上（H30：77%、R01：82%、R02：87%）を維持する。
- ※ 保護者向け学校教育自己診断における学校の人権教育に対する肯定率を令和5年度には85%以上（H30：73%、R01：81%、R02：84%）にする。
- (2) 様々な国にルーツを持つ生徒がともに学ぶ本校の特色を最大限に生かし、国際的な視野や問題発見・解決能力、コミュニケーション能力を育むとともに、SDGsの視点から文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献を理解する教育を推進する。
- ア 多文化理解公演会、文化祭等の学校行事、ホームルーム活動、地域行事への参画など、あらゆる機会を通して、相互理解を深め、自己有用感を高め、他を思いやる心を育む。
- ※ 教職員向け学校教育自己診断「在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」90%以上（H30：91%、R01：97%、R02：95%）を維持する。

3 地域をつなぐ（安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり）

- (1) 生徒の納得感のある指導により、規範意識の醸成と個々の生徒への支援を行う。
- ア 「成美高校マニュアル」に基づく教職員共通の生徒対応を通して、生徒の基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成をはかり、安全で安心な学びの空間を作る。また、保護者や関係諸機関との連携を図り、教育相談体制をさらに充実させて、課題を抱える生徒の支援を行う。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における生活規律等の基本的な生活習慣に関する項目の肯定率を令和5年度には80%以上（H30：70%、R01：74%、R02：79%）をめざす。
- ※ 保護者向け学校教育自己診断における生徒指導に関する項目の肯定率を令和5年度には80%以上（H30：74%、R01：76%、R02：78%）をめざす。
- イ 「高校生活支援カード」等を活用し、課題を抱える生徒の状況把握に努め、必要に応じて支援や外部機関等との連携に努める。

※ 生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目の満足度を令和5年度には68%以上（H30：54%、R01：60%、R02：62%）にする。

(2) 生徒の充実感のある学校行事や部活動を通じて生徒の自主性、自己有用感を醸成する。

ア 学校行事や生徒会活動を通してやる気のある生徒のリーダーシップを育てる。

※ 生徒向け学校教育自己診断における学校行事、部活動、生徒会に関する満足度を令和5年度には80%以上（H30：73%、R01：75%、R02：75%）をめざす。

イ 部活動の活性化に継続的に取り組む。

(3) 地域連携

ア 学校から積極的に情報を発信し、開かれた学校づくりを推進する。

※ 近隣の中学校との連携や広報活動、地域連携授業、地域のイベントへの積極的参加等を通して、地域に根ざした学校づくりを推進する。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

(1) 積み重ねてきた教育資源の有効活用と継承、ICTを活用した校務の効率化を進め、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。

※ 「成美高校マニュアル」の更新を進め、教職員で丁寧に読み合わせを行うことで、蓄積した教育資源を積極的に活用するとともに、チーム成美としての組織的を高め、業務負担の軽減を図る。

※ 時間外勤務月80時間以上の職員をなくす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
生徒ファースト・安全で 安心な学びの場づくり	「生徒ファースト」を基本的な考え方とした教育活動と「安全で安心な学びの場」づくり	生徒一人ひとりの多様な学びと進路実現に繋がる教育内容の充実を図るとともに、生徒の心身の状況を把握し、生徒を取り巻くあらゆる状況の変化に対応できる「安全で安心な学びの場」づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断における学校生活満足度の肯定率76% [74%] 生徒向け学校教育自己診断「この学校には、他の学校にない特色がある」「選択教科は工夫されていて、自分の学びたいことを選べる」の肯定率80%以上 [82%] 	
1 夢をつなぐ（確かな学力と進路実現）	<p>(1) テーマ「視覚化・構造化・協働化」とした授業充実・改善の取り組み ア 新指導要領に基づく3観点を伸ばす授業充実・改善の取り組み</p> <p>イ ICTを活用した授業、アクティブラーニング授業の研究</p> <p>(2) 希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成</p>	<p>(1) ア・生徒が自ら考える活動や課題に取り組む活動を毎時間実施する。 ・探究型学習を通して、思考力・判断力・表現力を養う。 ・観点別学習評価の試行実施と研修により、次年度本格実施に繋げるとともに、生徒の満足度を向上させる。</p> <p>イ・ICTを効果的に取り入れて学びの深化を図るとともに、教員研修や好事例の共有に取り組む。</p> <p>(2) ア・進路希望に応じた論文や面接の指導、インターンシップ等体験活動の充実を図る。 ・1年時から生徒の進路希望を把握し、進学講習体制を確立する。 ・コアカリキュラムを通じて、キャリアガイダンスを充実させるとともに、探究し表現する活動を通して、社会を生き抜く確かな学力が身につけられるよう取り組みを進める。</p>	<p>(1) ア・「授業アンケート」の「授業展開」（生徒が自ら考える時間や発表する活動を多く取り入れている）に関する肯定的意見80%以上を維持 [89.5%] ・生徒向け学校教育自己診断の授業に関する満足度72%以上 [70.3%] ・生徒向け学校教育自己診断「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率78%以上 [76%] イ・生徒向け学校教育自己診断「ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータやプロジェクタを使った授業がある」の肯定率90%以上 [93%] ・教職員向け学校教育自己診断「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」の肯定率90%以上 [93%]</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度79% [78%] ・1回目の就職試験合格率70%以上 [83.8%]を維持。 ・学校紹介就職希望者の就職率100% [100%] ・卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率5%以下 [0.0%]を維持。</p>	

<p>2 文化をつなぐ（人権意識）が身についた「他を思いやる心」をもつ生徒の育成</p>	<p>(1) 生命と人権を尊重し、他を思いやる「豊かな心」を持つ生徒の育成 ア 様々な人権問題の総合的な推進 イ 「帰国生徒・外国人生徒」個々の教育的ニーズに応じた支援の充実 (2) 国際的な視野や問題発見・解決能力、コミュニケーション能力の育成と SDGs の視点による文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献を理解する教育の推進 ア 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」と「日本人生徒や地域の方々」との相互理解</p>	<p>(1) ア・在日外国人に係る諸課題や、障がい者、性と性、感染症等の様々な人権問題について偏見や差別を許さない態度とその解決をめざした教育を総合的に推進する。 イ・「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」の学習状況や活動状況を校内で共有し、個々の教育的ニーズに応じた支援の充実に努める。 (2) ア・多文化理解公演会、文化祭等の学校行事、ホームルーム活動、部活動や地域行事への参画など、あらゆる機会を通して、「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」と「日本人生徒や地域の方々」との相互理解を深め、自己有用感を高め、他を思いやる心を育む。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率 80%以上 [87%] イ・保護者向け学校教育自己診断の人権教育に対する肯定率 80%以上 [84%] (2) ア・教職員向け学校教育自己診断「在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」の肯定率 90%以上 [95%] ・多文化理解公演会、「生と性を考える授業」を実施する。</p>	
<p>3 地域をつなぐ（安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり）</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成と個々の生徒への支援 ア 「成美高校マニュアル」に基づく教職員共通の生徒対応を通じた基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成 イ 教育相談のさらなる充実 (2) 生徒の自主性、自己有用感の醸成 ア 生徒会活動のさらなる充実 イ 部活動のさらなる活性化 (3) 地域連携 ア 地域から信頼される開かれた学校づくり</p>	<p>(1) ア・全教員による登校指導の継続実施 ・遅刻指導・服装指導の徹底を図り、基本的生活習慣を確立させる。 イ・カウンセリングマインドを持ち、共感的な姿勢で生徒の日常の教育相談を進める。 ・教育支援委員会（毎週）において、課題を抱える生徒の状況を把握し支援を行う。SC, SSW と緊密に連携し、生徒支援を行う。また、必要に応じて「個別の教育支援計画」の作成、ケース会議の開催、関係諸機関との連携を図る。 ・生徒支援に係る重要な情報は、秘密厳守で教職員全員が共有し、すべての教職員で見守りと支援・指導にあたる。 ウ・人権教育推進委員会、教育支援委員会が連携し、情報の共有、迅速な対応を図る。 (2) ア・体育祭、文化祭等学校行事の企画運営、学校説明会等での生徒が活躍する場を適切に設定し、生徒会役員をリーダーに据える。 イ・新入生オリエンテーション、体験入部（中学生、新入生）等の機会を活かし、部活動への参加促進を図る。 ・大会やコンクール入賞の部の支援を行い、さらなる活性化をめざす。 (3) ア・改編・広報 PT コア会議（週 1 回）を実施し、総合学科の教育内容の充実をはかり、広報活動を組織的に行う。 イ・地域のイベント等への積極的参加 ・生徒会役員、部活動部員を中心に地域清掃等へのボランティア参加 ・中高連携、地域連携授業を継続して実施し、積極的に学校の情報を中学校や保護者に発信すると共に、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>(1) ア・遅刻率（生徒一人当たりの遅刻回数）を前年度以下とする ・生徒の懲戒件数を前年度以下とする ・生徒向け学校教育自己診断の基本的生活習慣の確立に関する肯定度 80%以上 [79%] イ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における肯定率 64% [62%] をめざす ウ・人権教育推進委員会、教育支援委員会における各課題を、毎週、運営委員会・企画会議で共有する。 (2) ア 生徒向け学校教育自己診断における学校行事・部活動・生徒会活動に関する満足度 77%以上 [75%] イ・体験入部等の機会を通して、中学生への魅力発信を行う。 ・大会やコンクールの入賞数 10 件以上 [25 件] (3) ア・近隣中学校の訪問 5 回以上実施 [7 回] イ・地域のイベント参加数 25 件以上 [R 元年度 51 回、R2 年度はコロナ禍により実績なし] ・校区一斉清掃活動などの参加各 15 名以上 [R 元年度 21 名、R2 年度はコロナ禍により実績なし] ・HP、ブログなど家庭への情報発信を充実させ、保護者向け学校教育自己診断アンケートの情報発信の肯定度 75% 以上 [76%] を維持する。</p>	

4 働き方改革の推進 校務の効率化と	(1) 教育資源の有効活用と継承、ICT を活用した校務の効率化を進める	(1) 積み重ねてきた教育資源の有効活用と継承、ICT を活用した校務の効率化を進め、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。	(1) ・「成美マニュアル」の更新を進め、教職員で丁寧に読み合わせを行うことで、チーム成美としての組織的を高め、業務負担の軽減を図る。 ・時間外勤務月80時間以上の職員を前年度以下とし、なくすように努める。	
--------------------------	--------------------------------------	---	---	--